

08 イスラエルの人々はヨシュアの命じたとおりにした。

① 主がヨシュアに告げられたように、イスラエルの人々の部族の数に合わせて、十二の石をヨルダン川の真ん中から拾い、それらを携えて行き、野営する場所に据えた。

神様は何のために、イスラエルにここを記念するよう命じられたのか。

神様の奇跡によってヨルダン川を渡ったという出来事は、それを経験した者たちには、この大いなる御業をなしてくださった神様が、ヨシュアと共に、そして神の民である自分たちと共におられることを教えました。そして、その話を聞く次の世代の子供たちは、この大いなる御業をなしてくださった神様が今も自分たちと共にごいてくださる、その信仰を受け継いだのです。

「記念する」とは、過去の神様の御業にまなざしを向けつつ、今も共におられる神様にまなざしを向け、神様によって導かれる将来に向かってのまなざしをも神の民に与えるのです。

神様は今も生きて働いて私たちを守り、養い、導いてくださっています。そのことを心に刻むと共に、私たちの明日は神様と共にあるのだから、何も心配することはない、そういう信仰を持つことができるのです。

②09 ヨシュアはまた、契約の箱を担いだ祭司たち（→ケハト氏族出身のレビ人の祭司が主の箱—契約の箱を運ぶ務めに任じられていた。＝出エジプト 25：10～22、民数記 4：1～6、サムエル記上 4：4）が川の真ん中で足をとどめ（イスラエルの民が神の地上の玉座である主の契約の箱の脇を通り過ぎ）た跡に十二の石を立てたが、それは今日（に至る）までそこにある。

10 主がヨシュアに命じて民に告げさせたことがすべて終わるまで、箱を担いだ祭司たちはヨルダン川の真ん中に立ち止まっていた。すべてモーセがヨシュアに命じたとおりで。その間に民は急いで川を渡った。11 民が皆、渡り終わると、主の箱と祭司たちとは民の先頭に立った。12 ルベンとガドの人々、およびマナセの半部族は、モーセがかつて告げたとおり、隊伍（＝隊列：聖書協会共同訳）を整え、他のイスラエルの人々の先に立ち、13 約四万の武装した軍勢が主の前を進み、戦うためエリコの平野に向かって行った。

→ルベンとガドの人々およびマナセの半部族は、ヤコブの12人の息子の名から採られ（創 32：28、35：23～26 他）、ヨルダン川東岸の地域に定住することになる。この土地の分配の約束はモーセの時代に遡る（ヨシュア 22：1～9、民 32：28～32、申 3：18～20）。マナセ族はヨルダン川を挟んで東西に土地を与えられたため、それぞれが「マナセの半部族」と呼ばれる。

14 その日、全イスラエルの見ている前で、主がヨシュアを大いなる者とされたので、彼らはモーセを（畏れ）敬ったように、ヨシュアをその生涯を通じて（畏れ）敬った。

この渡河によってヨシュアが指導者であることが示された（ヨシュア記 1：5、17、18、3：7）。

15 主はヨシュアに言われた。

16 「掟（→証し）の箱を担ぐ祭司たちに命じて、ヨルダン川から上がって来させなさい。」

17 ヨシュアが祭司たちに、「ヨルダン川から上がって来い」と命じ、18 主の契約の箱を担ぐ祭司たちはヨルダン川から上がり、彼らの足の裏が乾いた土を踏んだとき、ヨルダン川の流れは元どおりになり、以前のように堤を越えんばかりに流れた（→岸まで満ちて流れ出した）。

19 第一の月（→アビブ、ニサンニサンの月）の十日（→10日に過越祭のための小羊を準備し、14日にそれを屠り、その血を家の鴨居と入り口に塗る、出エジプト記 12：1～28）に、民はヨルダン川から上がって、エリコの町の東の境にあるギルガルに宿営した。

→イスラエルの共同体全体に次のように告げなさい。『今月の十日、人はそれぞれ父の家ごとに、すなわち家族ごとに小羊を一匹用意しなければならない（出エジプト記 12：3）。

ギルガルは、エルサレムがいけにえを献げる唯一の場として定められるまで、重要な礼拝の場であった（サムエル記上 11：15、サムエル記下 19：16）。ギルガルには「輪」の意味もあり、十二の石を円形に置いた場所を指すこともある（ヨシュア記 5：9）。

20 ヨシュアはヨルダン川から取った十二の石をギルガルに立て、21 イスラエルの人々に告げた。

「後日（→将来）、あなたたちの子供が、これらの石は何を意味するのですかと尋ねるときには、22 子供

たちに、イスラエルはヨルダン川の乾いたところを渡ったのだと教えねばならない。

23 あなたたちの神、主は、あなたたちが渡りきるまで、あなたたちのためにヨルダンの水を涸らしてくださった。それはちょうど、我々が葦の海（→ナイル川デルタ地帯の東部付近にあった沼か淡水湖の一つと思われる。七十人訳ギリシア語聖書※1で、葦の海は「紅海」と訳された）を渡りきるまで、あなたたちの神、主が我々のために海の水を涸らしてくださったのと同じである。24 それは、地上のすべての民が主の御手の力強いことを知るためであり、また、あなたたちが常に、あなたたちの神、主を敬う（→畏れる）ためである。」



⑩⑪⑫の記述から、ギルガルの宿営地に建てられたもの（4：1～3、19、20）と、ヨルダン川の川底に据えられたもの（4：9）の二つの説明があるので、記念碑は二か所に設けられた可能性がある。

※1：七十人訳ギリシア語聖書

紀元前3世紀中葉から紀元2世紀に作られたギリシア語訳の『旧約聖書』の総称で「セプトゥアギンタ」Septuaginta（70の意）ともよばれ、LXXと略記する。プトレマイオス2世フィラデルフォス（在位：前283～前247）の治世に、『旧約聖書』（ヘブライ語）の五書の最初のギリシア語訳が、パレスチナから派遣された72人の長老により72日間で作られたとされている。キリスト教会がその形成期にこれを用い、書写伝達された。「七十人訳」の名称は、五書にとどまらず、『旧約聖書』全体の最古のギリシア語訳の意に用いられている。

【参考】シロの幕屋(ヨシヤ記 18:1)

イスラエルの人々の共同体全体はシロ（→図1）に集まり、臨在の幕屋を立てた（ヨシヤ記 18：1）。→礼拝の場所がギルガルからシロに移り、臨在の幕屋（定められた機会に神に会うための天幕）が立てられた。紀元前1050年頃にペリシテ人によって略奪され（サムエル記上4：3、4、11、5：1、2他）、後、契約の箱が、ダビデによってエルサレムに運び込まれる（サムエル記下6章他）まで、礼拝の場所は、シロの幕屋でした。

→ホセア書 12：12b

ギルガルでは雄牛に犠牲をささげている（→また雄牛がいけにえとして屠られる）。その祭壇は畑の畝（→土を盛り上げた所）に積まれた石塚にすぎない（→石の山のようになる）。

【参考】太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

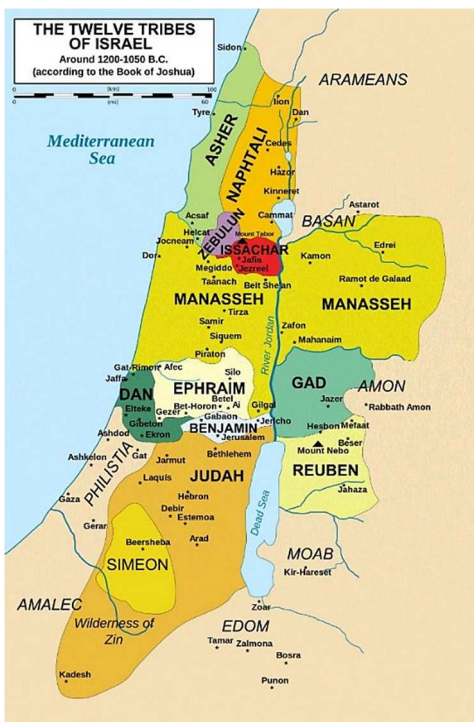
太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammūz	ア ブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シユバン Marcheswā n	キスレーヴ Kislew, Kislev	テベット T'ebheth	シユバット Sabhāt	アダール Adhār, Adar	
バビロニアの月名 ():カナン の古称	ニサン (アヒブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	ア ブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (フル)	キスレウ	テバト	シェバト	アダール	
主な行事	←← 七週間 →→		七週祭(シャブオット)→詩編68:2~4を朗読 II 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭:過越祭、七週祭、仮庵祭				1:新年 新年祭(ロシユ・ハシヤナ)※1 10:大贖罪日(ヨム・キツプール) 15~21:仮庵祭(スコット)		25:宮清めの祭(光の祭り、ハヌカ) (25日~8日間) ※1:Rash Hashanah(ヘブライ語) (頭) (年)				
	14~21 過越祭(ベサハ) 除酵祭		→過越祭(ニサン月の14~21日) { ①過越祭(過越しの祭り):ニサン月の14日の日没~15日の日没 ②除酵祭(種を入れないパンの祭り):15日の日没~21日の日没										

・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式(太陰太陽暦)です。
 ・ユダヤ暦は、一日が日没(夕方)に始まり、次の日の日没(夕方)に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」(創世記1:5他)と記されているからです。
 ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
 ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年(西暦よりも3760年長い)となる。

【参考】聖書に登場する「十二の石」(ヨシュア記を含む)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 (十二の石)5個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 十二の石]
K 出エジプト記	24:4 モーセは主の言葉をすべて書き記し、朝早く起きて、山のふもとに祭壇を築き、十二の石の柱をイスラエルの十二部族のために建てた。	
K ヨシュア記	4:8 イスラエルの人々はヨシュアの命じたとおりにした。主がヨシュアに告げられたように、イスラエルの人々の部族の数に合わせて、十二の石をヨルダン川の真ん中から拾い、それらを携えて行き、野営する場所に据えた。	
K ヨシュア記	4:9 ヨシュアはまた、契約の箱を担いだ祭司たちが川の真ん中で足をとどめた跡に十二の石を立てたが、それは今日までそこにある。	
K ヨシュア記	4:20 ヨシュアはヨルダン川から取った十二の石をギルガルに立て、	
K 列王記上	18:31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、	

【参考】カナン分割(BC1200~1030)



ThoughtCo.

NO COPY H. Taniguchi